

令和3年度（6月） 第3回浜北区協議会 次第

日時：令和3年6月24日（木）午後1時30分から

会場：浜北区役所 大会議室（なゆた・浜北3階）

1 開 会

2 議 事

(1) 報告事項

協働センターを核とした地域課題解決事業について（1件）【資料1】

※当日配布

3 その他

(1) その他

(2) 次回開催日程について

4 閉 会

第9号様式

区 協 議 会

区 分	<input type="checkbox"/> 諮問事項 <input type="checkbox"/> 協議事項 <input checked="" type="checkbox"/> 報告事項				
件 名	協働センターを核とした地域課題解決事業について				
事業の概要 (背景、経緯、 現状、課題等)	灰木地区を流れる田光川は、かつては無数のホタルが飛び交い、季節の風物詩として地域住民の憩いの場であった。また、平成17年3月には田光川沿いの休耕田を活用しホタルの里を整備したが自然災害による河川環境の悪化に伴いホタルの数も減少してしまった。ホタルの繁殖活動を通して地域の力によって自然を守り育てるためホタルの里の環境美化再生運動を実施する事業である。				
対象の区協議会	浜北区協議会				
内 容	別紙のとおり				
備 考 (答申・協議結果を得たい 時期、今後の予定など)					
担当課	浜北区・まちづくり推進課	担当者	後藤 伸宇	電話	582-3011

必要に応じて、記入枠の拡大や資料等の添付をしてください。

協働センターを核とした地域課題解決事業について

浜北区・まちづくり推進課

1 事業名 ホタルの里再生プロジェクト

2 目的

灰木地区を流れる田光川は、かつては無数のホタルが飛び交い、季節の風物詩として地域住民の憩いの場であった。また、平成 17 年 3 月には田光川沿いの休耕田を活用しホタルの里を整備したが自然災害による河川環境の悪化に伴いホタルの数も減少してしまった。

ホタルの繁殖活動を通して地域の力によって自然を守り育てるためホタルの里の環境美化再生運動に取り組む事を目的とする。

3 事業内容

- (1) 専門家を招き、ホタルの繁殖についての講義講習会を開催し、事業に関する助言・指導を受ける。
- (2) 助言・指導を踏まえた活動計画を作成し、ホタル繁殖に係る以下の環境整備活動を行う。
- (3) ホタルの繁殖に影響を及ぼさないように草刈を行なう。
- (4) 繁殖のためのホタルを採取し、飼育する。
- (5) 採取後のホタルの飼育観察をする。
- (6) 子供たちにも参加を呼びかけ、卵から孵った幼虫の放流会を開催する。
- (7) 活動経過について、定期的に亀玉協働センターにて掲示等の広報活動を行う。
- (8) ホタルの採取から放流までの(5)の飼育観察の報告会を実施する。
- (9) 地域の子供たちを中心に「ホタルの里」の看板を書き替える。

4 事業効果

- ・地域住民の憩いの場であったホタルの里を再生することにより、ホタルが飛び交うようになり、地域のコミュニティが深まる。

- ・子どもたちを参加させることにより、自然にふれあいながら、ホタルを守り育てる教育につながる。
- ・田光川の環境美化再生することにより、ホタルの里の水質改善が計られ、河川環境の改善につながる。

「ホタルの生活とホタルも棲める良い自然」

信州大学名誉教授 藤山 静雄

最近、ウナギ、ホタルなど、多くの生き物が急速に減少しています。しかし、このことの十分な対策ができていません。そこで、私たちは、一般の関心が高いホタルをもちいて生き物の絶滅を防ぎ、生きものや人に住み良い環境を残していこう、という「ホタルも棲める良い自然」の運動をはじめました。これでは、ホタルも棲めるよい自然環境の復活と、よい自然を残していくこと、自然の大切さを皆さんに呼びかけることなど、の活動をしています。

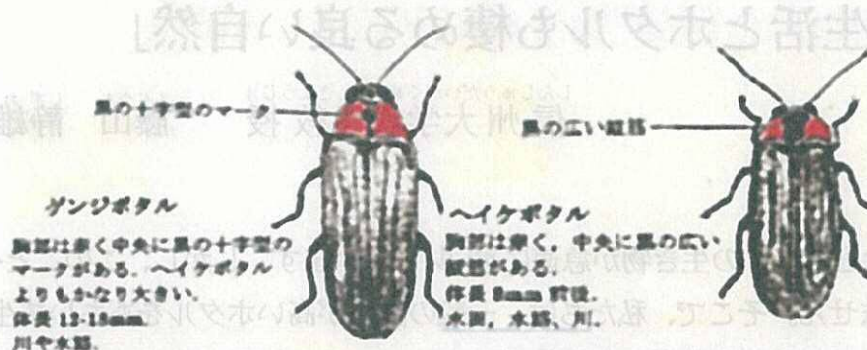
さて、ホタルは日本には50種余りあります。有名な光るホタルはゲンジホタル、ヘイケホタル、ヒメホタル(以後ゲンジ、ヘイケ、ヒメと呼びます)の3種です。大きさは、ゲンジは約1.5cm、ヘイケは1cm、ヒメは8mmです。3種の違いは胸の背側の部分でわかります(図1と図2)。体はオスがメスより小さいのですが、光る部位はオスが2環節、メスは1環節(図3)なので、オスの方が明るいです。ホタルは、夜8時前から光り始め、午後9時頃まで多くが光りますが、その後は光る個体はだんだん少なくなります。オスはよく飛びますが、メスは草むらでひっそりしています。オスが空から光ってメスに呼びかけると、メスも光って答えます。すると、オスはメスの近くにおりてきて熱く光り合い、仲良くなると結婚します。ホタル成虫の寿命は短く自然では約1週間です。成虫は昼間、草陰などで眠っています。

成虫は6月頃に地上に現れ、水滴を飲むだけで約1週間の寿命を終えます。その間、ゲンジのメスは卵を約500、ヘイケも100個余り、草むらの湿ったコケなどにうみつけます。卵の大きさは1ミリ位、約20日余りでかえります。かえった幼虫は1mmより少し大きく、歩いて水の中に入ります。ゲンジの幼虫では主にカワニナ、ヘイケの幼虫では、カワニナ、サカマキガイ、小さな弱った水生昆虫、ミミズなどを食べて育ちます。その間、7月から翌年の4月初めまで水中で生活し、ゲンジで5回、ヘイケで4回、皮を脱いで大きくなります。十分に育った幼虫は4月頃の雨など湿った日の夜に水中から陸上で土中に入り、土繭を作り蛹になります。約1か月後、成虫となり地上に出て、一年で一生の生活を完結します(図5)。

幼虫の放流は成虫の発生数を増やしますが、その場所を「ホタルの棲み続けられる場所」にするには、図5のように、成虫にとって大切な暗闇、休める木や草、昼間の隠れ場所、産卵場所などを十分に整えることが必要です。更に、産まれた小さな幼虫は餌を捕まえるのがとても大変で、死しやすいです。幼虫の餌となるいろいろな生き物がすめる水辺が必要になります。それ以外にも図5の赤字で示した環境が大切です。環境を整えていきましょう。

最後に、皆さんには「ホタルも棲める良い自然」の言葉を覚えて頂き、この地域のホタルの生息環境や自然環境を末永く守って下さるよう、お願いをさせていただきます。

ゲンジボタルとヘイケボタルの違い



ゲンジボタル
 胸部は赤く中央に黒の十字型のマークがある。ヘイケボタルよりもかなり大きい。体長 12-15mm。川や水辺。

ヘイケボタル
 胸部は赤く、中央に黒の広い縦線がある。体長 8mm 前後。水田、水路、川。



ヒメボタル：赤い頭の前が横に広く黒いのが特徴。

図1 ゲンジボタル(左)とヘイケボタル(右)。ゲンジでは赤い部分の黒縦棒が細く中央が丸く拡大。ヘイケでは黒の太い縦棒。

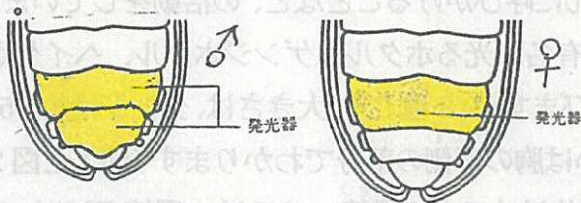


図3 ホタルのオスとメス(腹側)の発光器(黄色)。オスでは2つ、メスでは1つなのでオスが明るい。



図4 ヘイケボタル4齢幼虫。図中のメモリは1mm。

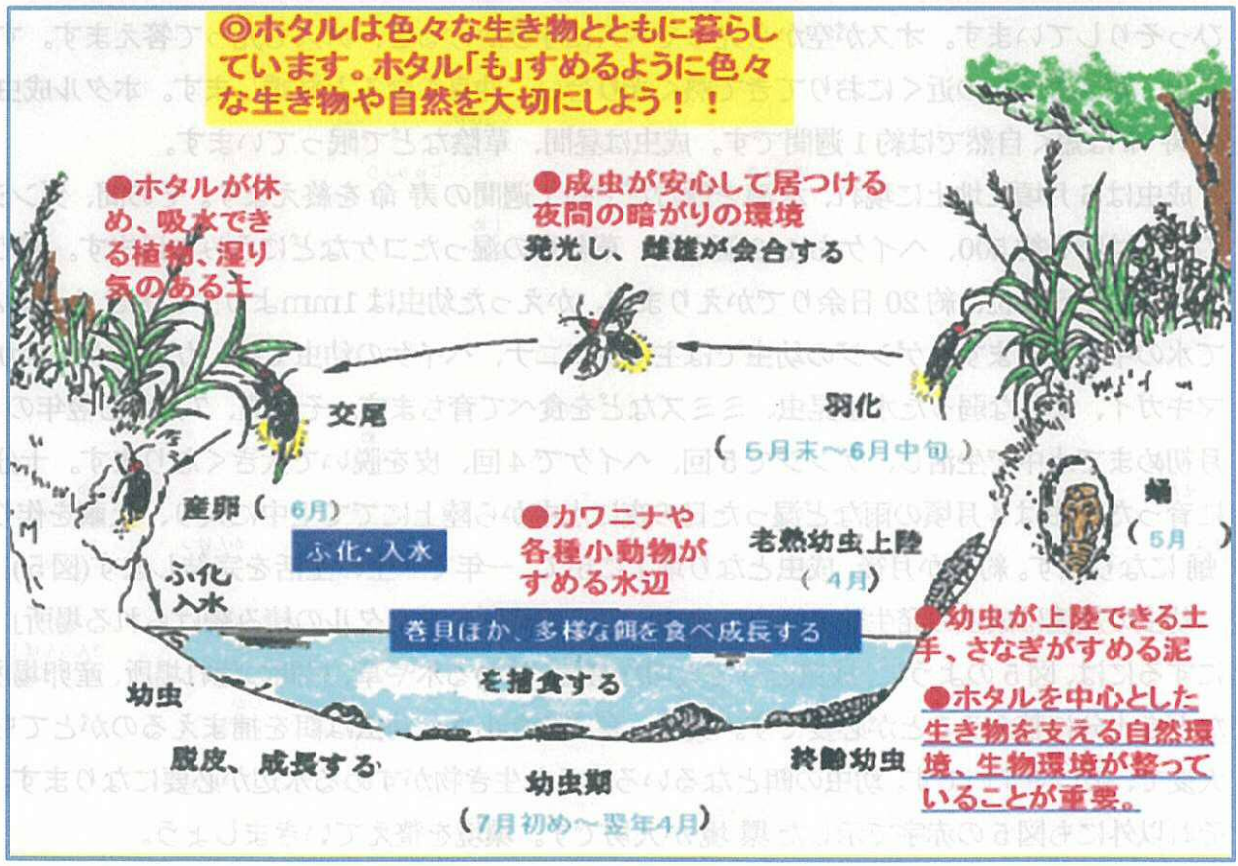


図5 ホタルの一生とその環境。ゲンジボタル、ヘイケボタルは蛹、成虫、卵期を陸上で過ごし、幼虫期は水中で餌を食べ、他のいろいろな生き物とかかわりながら一年で一生の生活をおくります。